

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	立命館大学				
取 組 名 称	地域社会問題を学生創造力で解く学びの仕組				
取組学部等	政策科学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22188	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	キャリア	外国語	地域活性化		
キーワード	地域社会, 貢献, 問題解決, カフェテリア, 創造力				

<選定理由>

本取組は、学生の創造力を地域社会の問題解決プロセスにおいて発揮させ、地域社会への貢献と学生教育の両立をめざす優れた取組である。ゼミナール科目を中心にカフェテリアとよばれるフレームワークをつくり、そこにヘルプ・デスクや専門家によるホットライン・メール窓口など、さまざまな学習支援メニューを用意した上で、学生が地域社会から要望される問題の解決方法を模索してゆくプログラムは教育の枠組みにおける社会貢献として効果をあげることが期待される。

ただし、正課科目の充実を図る教育方法としてみた場合に、学生の学習成果、到達度をどのように測定するのかやや不明な点が見受けられる。今後、この点に配慮した上で、着実に取組の成果をあげることが期待する。

取組の概要

学生の町・京都では、大学だけでなく地域社会も学生達を育んできた。地域社会をフィールドとする大学教育においては、地域社会主体の善意の下で、地域社会主体に負担を強いてきた。一方通行的な地域社会と大学・学生との関係は好ましくない。大学が提供可能な教育の枠組みを用いた恩返しが必要である。本取組は学生の創造力を地域社会の問題解決プロセスにおいて発揮させ、地域社会への貢献と学生教育の両立を可能とするものである。

ゼミナール科目を中心に、正課・正課外の支援カリキュラムを通じて、学生が地域社会から要望があった課題解決に挑戦する。仕組みとしては、ゼミナール科目の機動性を活かすためにカフェテリアというフレームワークを採用する。カフェテリアには正課・正課外のメニュー群で構成された問題解決を支援する技法が用意される。ゼミナール科目担当教員は、問題解決思考すなわち、筋道を立てて考え・表現する論理的思考、多数の利害関係者の立場を踏まえた多角的視点での考察、因習や固定観念に捕らわれない批判的思考を重点指導事項とする。

本取組は、2004年度・2005年度に近畿青年税理士連盟京都支部から演習先紹介という協力を得て実施され地元中小企業への活性化策提案を行ったマーケティング演習（3回生チーム）及び、2007年度に京都木屋町地区（飲食店街）の新規顧客開拓という要望に対して、Decoding Kyotoチーム（2回生ゼミナールクラス）が外国人観光客集客という目標を見出し、外国人ニーズに応えた英語冊子を作成・配布したという教育事例などを拡大・充実・システム化した取組である。

■ 本取組のメリットとしては次のような点である。

- 地域社会へ問題解決を通じた貢献を行うことで大学と地域との連帯感が強まる。
- 学生が地域社会への貢献を意図することで、学生の責任感を養うことができる。
- 教員・学生以外の第三者である地域社会主体との密接な議論を伴う問題解決プロセスを経験することにより、学生は一足早い社会での実践経験を味わうことになる。
- 更に、現場での教育と連携した実践経験により、学生は自らの知識の不足を体験し、以降の学びの目標設定の動機付けとなる。

■ 問題解決プロセスとは、地域社会主体からの問題解決要望の確認・問題点の探索・解決案の提示のプロセスである。小集団で行われる政策科学演習科目（ゼミナール科目）を対象にし、特に2回生「研究入門フォーラム」で積極的に展開する。2007年度授業アンケートでは「研究入門フォーラム」の授業外学習時間（5段階評価：ポイントが高い方が授業外での学習時間が長い：前期3.21ポイント：後期3.222ポイント）は、全学小集団平均値（前期2.7ポイント：後期2.81ポイント）よりも高く、高水準のカフェテリア利用が期待できる。

■ 仕組みとしては、学生による問題解決を支援するカフェテリア・メニューと、地域社会における場を準備する。大学院G P採択時に展開したオンサイト拠点も最大限活用する。

■ カフェテリアは学生による問題解決を支援するメニュー群で構成される。メニューは支援形態と支援内容から構成される。支援形態としては、「正課授業で準備するもの」、「正課外のセミナーの開催」、「ヘルプ・デスクの設置」、「ホットラインやメール窓口の設置」などである。支援内容は「経営コンサルティング手法に関連するメニュー」、「調査・分析に関するメニュー」、「提案実行のために必要とする英語教育メニュー」、「デジタル情報発進技法に関するメニュー」に大区分する。

■ ファカルティ・ディベロップメントに関しては、取組に関するアンケート調査及び各カフェテリアに寄せられた課題を資料とし、学生の創造性・自主性の開発・維持に関する考察と、地域社会と大学・学生との双方向性を考慮したカフェテリア・メニュー並びにその正課カリキュラムへの展開の可能性を追求する。